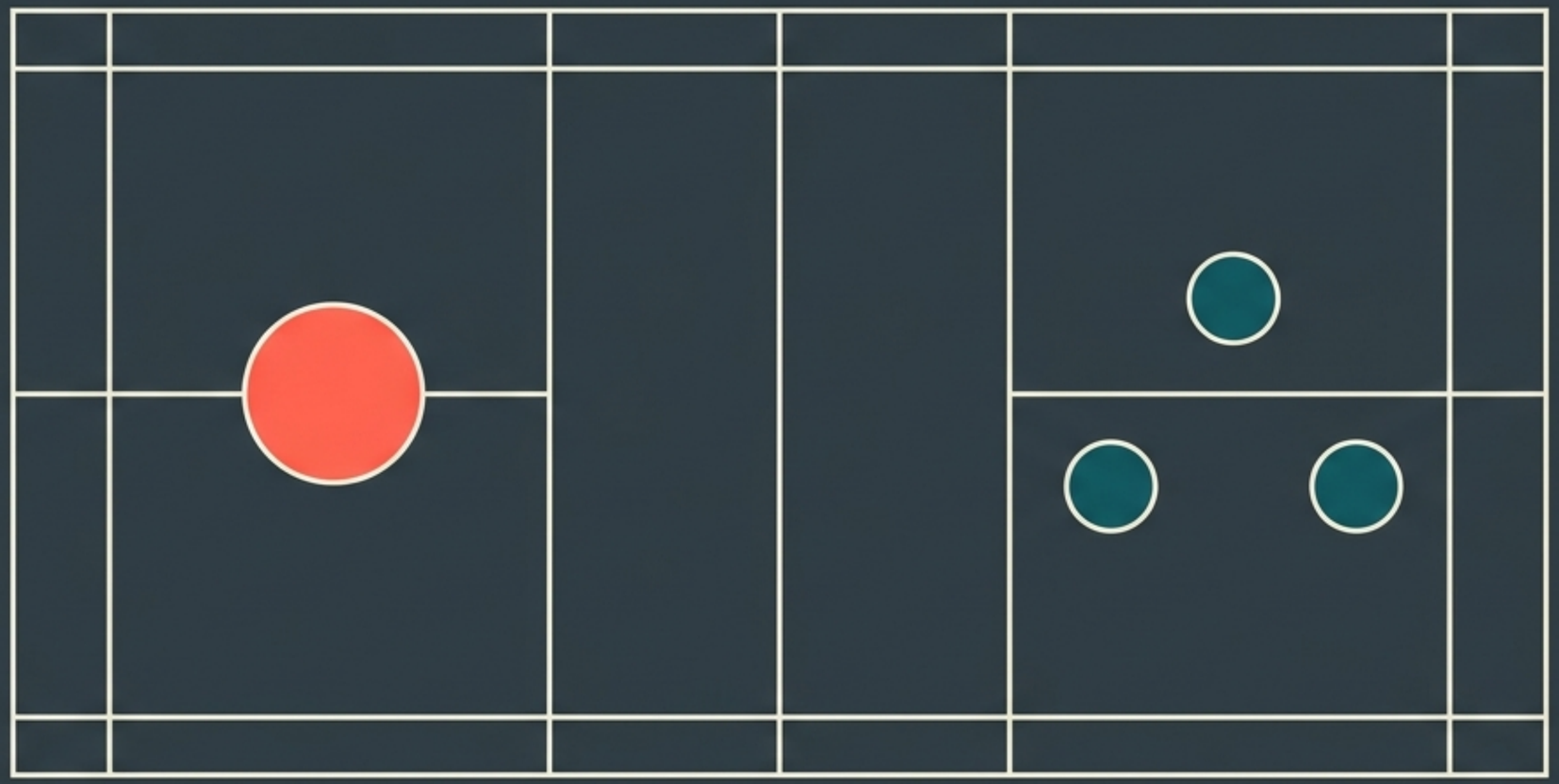


バドミントンは、決める競技ではない。点差をつくる競技だ。

PHOENIX愛知が紐解く、ダブルスにおける真の貢献と勝利の哲学

Gemini Notebook



「なんで決めないの！」

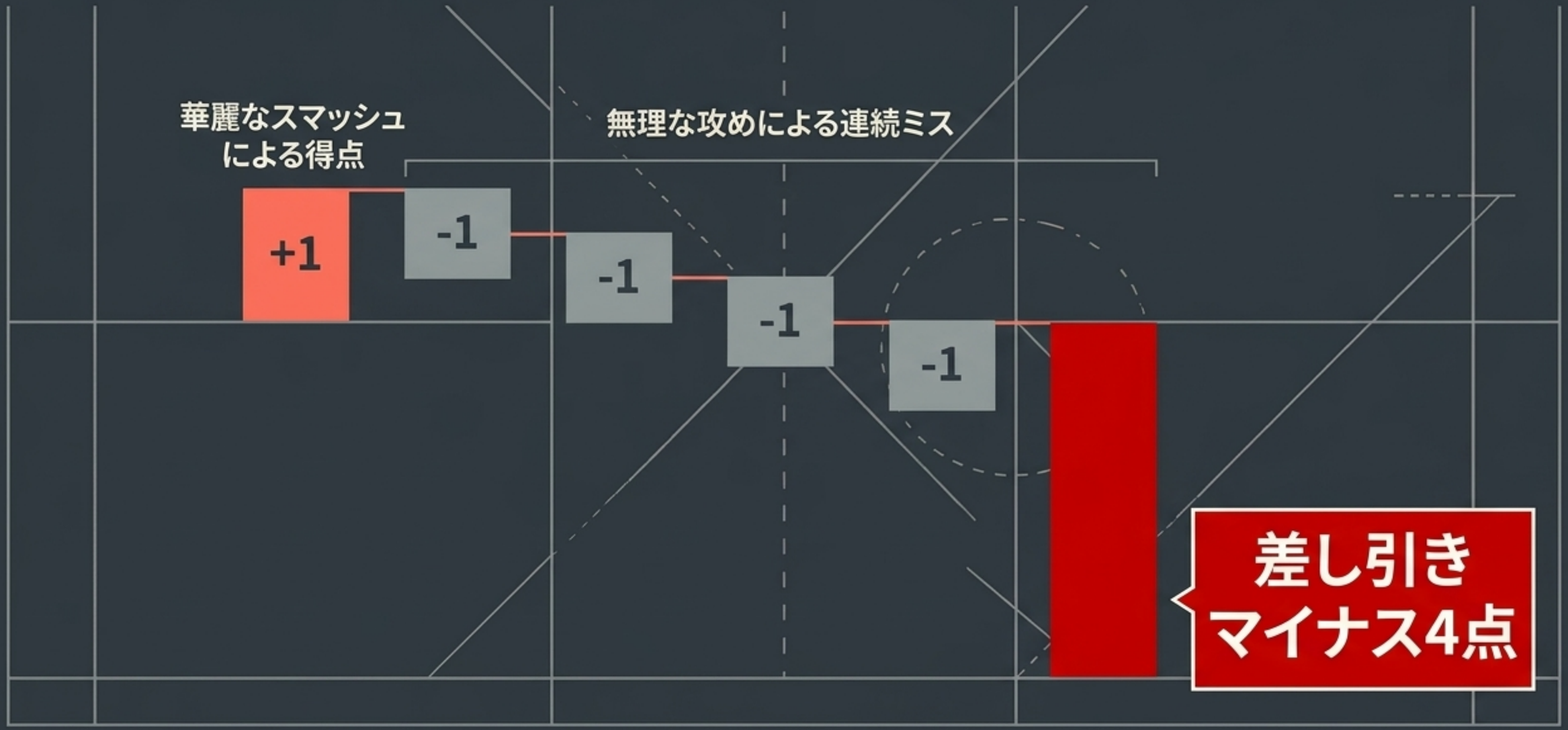


パートナーが「決めるべき球」を繋いだとき、私たちは苛立ちを覚える。

しかし、その不満の裏には致命的な「盲点」が隠されている。
自分の失点には甘く、味方が決めないことには厳しい。
ここに、勝てないチームの根本的な理由が存在する。

Gemini Notebook

残酷な算数：華麗な1本は、5本のミスを帳消しにしない



Gemini Notebook

エゴイズムの死角

自分のプレーに対する評価



パートナーに対する評価



バドミントンを「決めるスポーツ」だと誤認している限り、自分の無謀なプレーを正当化し、堅実にプレーするパートナーを責め続けることになる。

Gemini Notebook

決定的なすれ違い



自分が活躍した実感

≠

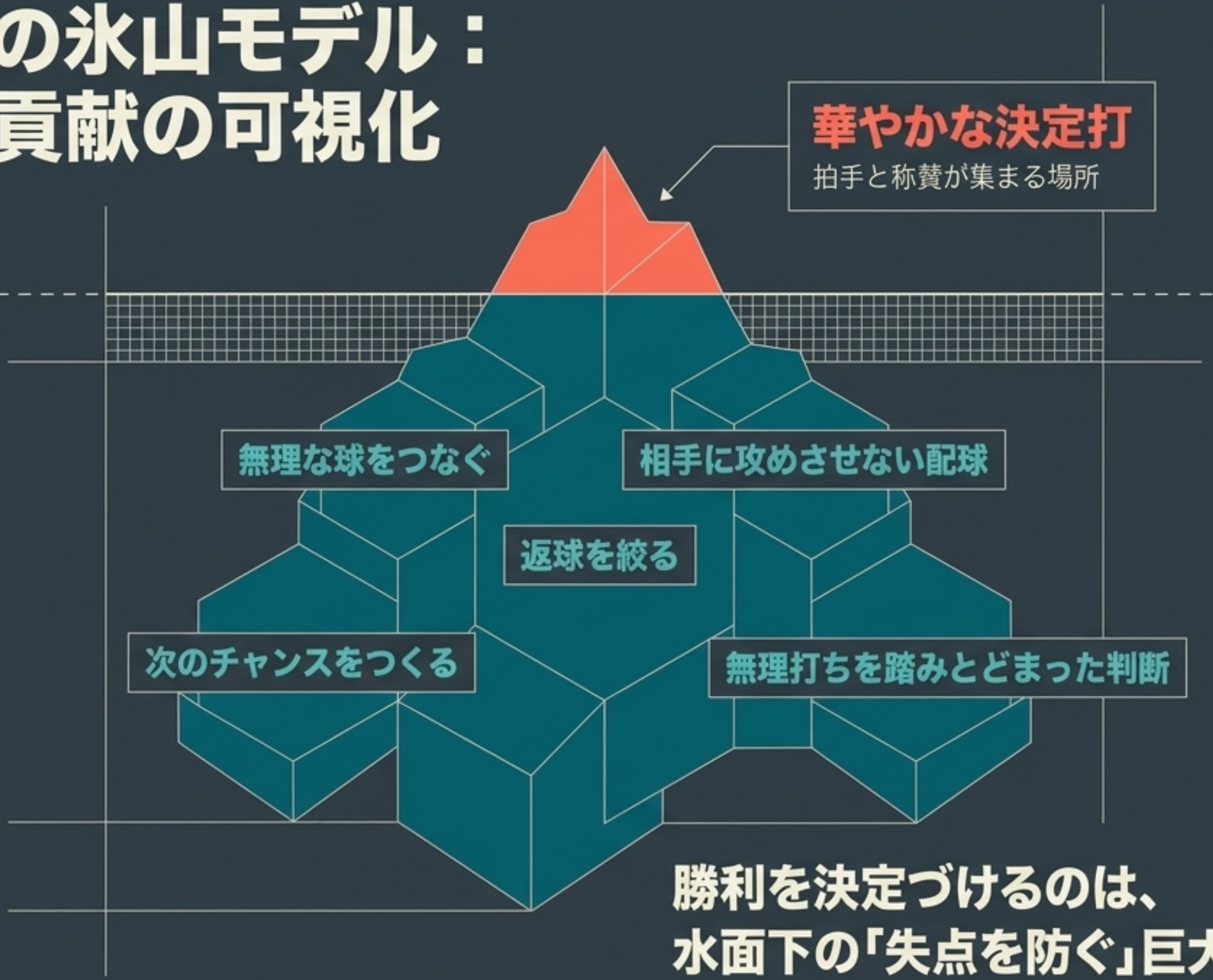


チームへの貢献

一本決めれば気持ちがいい。自分の力を示せた気にもなる。しかし、その「気持ちよさ」は、パートナーが５つの失点リスクを背負うことで成り立っているかもしれない。自分のミスを支えてくれた人に、決めた一本がないことを責める。これはひどく残酷なすれ違いだ。

Gemini Notebook

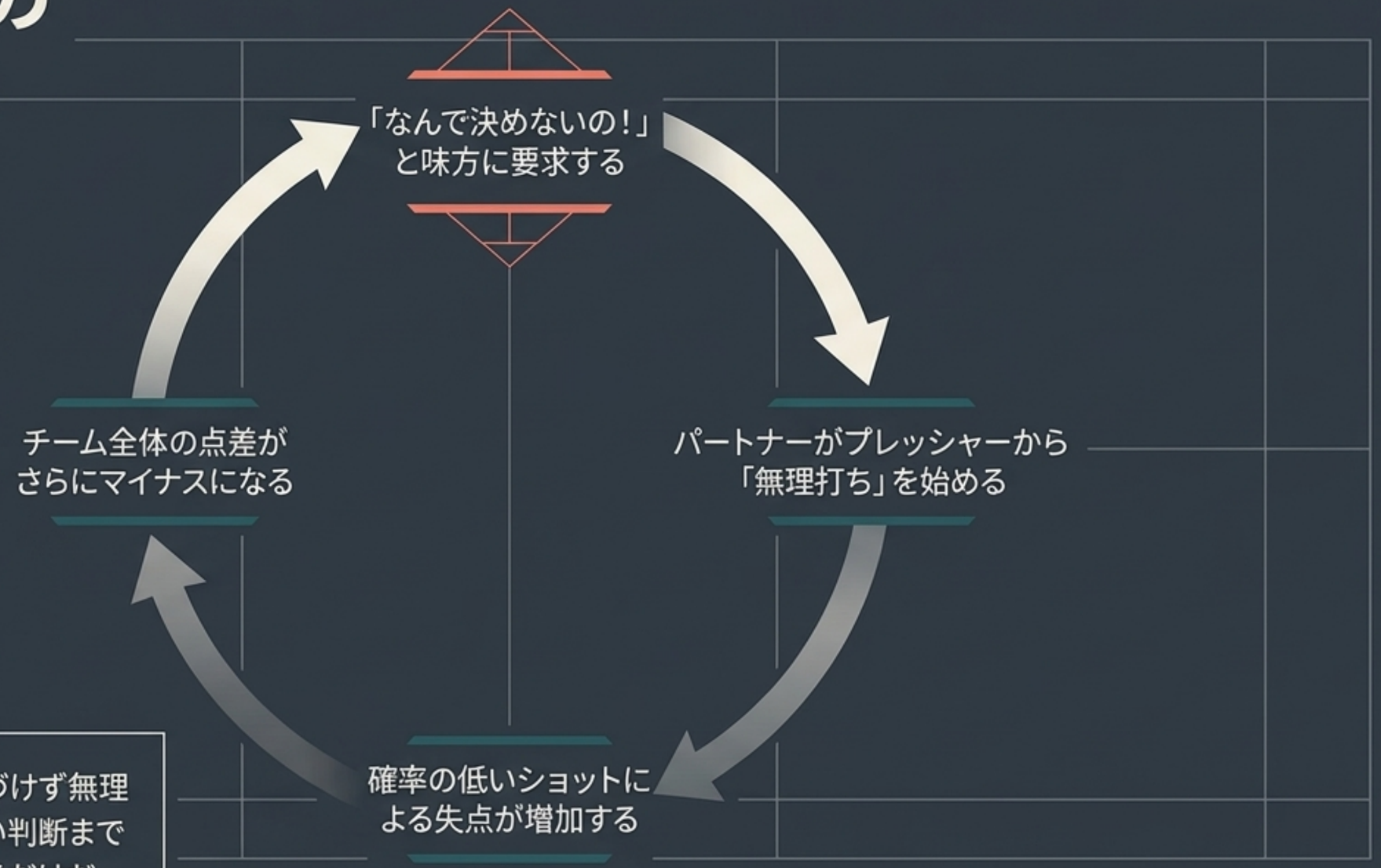
ダブルスの氷山モデル：見えない貢献の可視化



勝利を決定づけるのは、
水面下の「失点を防ぐ」巨大な基盤である。

Gemini Notebook

チーム崩壊のサイクル



味方の「見えない貢献」に気づけず無理を強要すれば、せっかくの良い判断まで壊し、二人で失点を加速させるだけだ。

Gemini Notebook

あなたはどちらのプレーヤーとしてコートに立つか？

比較項目	ストライカー：決める 競技だと思う人	ビルダー：点差をつくる 競技だと知る人
目的	自己の活躍	チームの勝利
成功の指標	決定打の数	得失点の差（点差）
自らのミスへの解釈	「攻めた結果」と自己正当化	リスク管理の失敗と反省
パートナーへの影響	プレッシャーで堅実さを壊す	負担を減らし、強みを活かす

Gemini Notebook

問いの転換

~~「何本決めたか？」~~

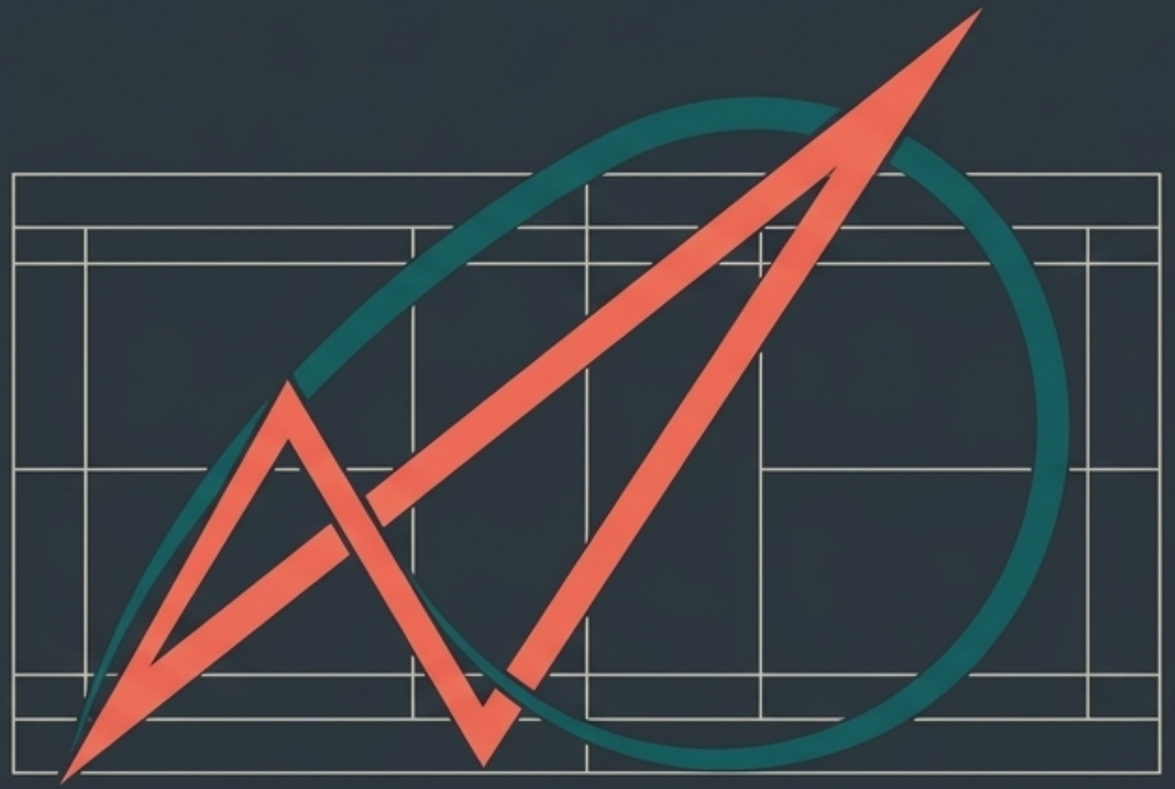
「そのプレーで、勝利に近づいたか？」

問うべき基準を変えなければ、味方の真の価値は永遠に見えてこない。
決めた自分に満足するうちは、失点を防いだパートナーの存在は透明なままだ。

Gemini Notebook

強さと美しさの正体

- 自分が決めた場面だけでなく、
  自分が「失った点」を正確に見る。
- パートナーが「失わせなかった点」に
  最大限の敬意を払う。
- 自分の一本を誇る前に、味方が
  支えた一球に気づく誠実さを持つ.



華やかな一本への称賛を否定するのではない。
その喜びを、二人の勝利へと結びつけるための「視点」を持てるかどうかが問われている。

Gemini Notebook

明日のコートで、あなたはパートナーの
どのプレーに「ありがとう」と言いますか？

PHOENIX愛知

豊田市・岡崎市のバドミントン教室
phoenix-aichi.net

Gemini Notebook